

## ～世界リーディング・ユニバーシティに向けて～

東北大学は、1907年（明治40年）の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造してきました。また、研究の成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献してきました。その歴史は、東北大学に関わる人々のためめ挑戦を通して築き上げられてきたものです。東北大学は、本年創立100周年を迎えました。



いま、人類社会は地球規模で克服すべき様々な複雑かつ困難な課題に直面しています。東北大学は100年という歴史の中で継承してきた知の蓄積と、絶えざる研究・教育の創造を通して、前途に横たわる諸課題に堂々と立ち向かう先導力となる決意をしています。それこそが「世界リーディング・ユニバーシティ」として人類社会の発展に貢献する大学の姿と考えるからです。

こうした決意をもってこれからの東北大学について考えると、「Challenge（挑戦）」、「Creation（創造）」、「Innovation（革新）」という3つのキーワードを基軸に行動することが重要と考えます。そして核となるのは、これからの人類社会の形成に向けた卓越性の追求をもって取り組む「挑戦」の精神です。

東北大学は「知の継承体」として、不撓不屈な挑戦の精神を持つ人材を数多く輩出し、更には国際社会で指導的な役割を果たす人材を各方面に送り出すことによって、人類社会に対する貢献を果していきます。

また、東北大学は「知の創造体」として、挑戦の精神をエネルギーに世界最高水準の知を「創造」し、その知を実際に活用することによって、人類社会に対する貢献を果していきます。特に、人類社会の重要課題である地球環境問題、エネルギー問題、食料問題、生命・福祉問題などを解決する「革新」を求めて、横断的学際化（Transdiscipline）を重視した融合領域分野における研究に挑戦していきます。

そして、東北大学は内外に開かれた「知の経営体」として、目標達成のための戦略を立て、学内外のさまざまな英知を結集して努力していくことにより、本学が培った実力を如何なく発揮し、世界最高水準の研究中心大学として輝かしい前途を切り拓いていきます。

東北大学は本年3月に2007年度を初年度とする「井上プラン2007」（東北大学アクションプラン）をとりまとめました。このプランは人類社会への貢献という揺るぎなき姿勢をもって、教育、研究、社会貢献、キャンパス環境、組織・経営という5つの柱ごとに、「世界リーディング・ユニバーシティ」を目指した戦略実行プランを打ち出したものです。現在、東北大学では様々な新しい課題に挑戦しています。一例は、卓越した知識と創造的総合知を備えた、21世紀の学術をリードする研究者を育成する「国際高等研究教育機構」の創設です。自然科学から人文・社会科学にわたる13の「21世紀COEプログラム」の成果を結集し、創出された新融合領域を基盤とした全学横断の若手人材の育成を行います。また、世界の大学と提携し、国際的な視野を備えた学生を育成するための「海外インターンシップ制度」も積極的に導入します。さらに、世界トップレベルの戦略的研究拠点の形成、産学官連携事業等を通じた新実業の創出の先導、世界に開かれた国際水準キャンパスの構築、国際競争力を支える「東北大学式人事システム」の構築など、オリジナリティに溢れた取組をしていきます。

「世界リーディング・ユニバーシティ」になるという目標は、一朝一夕に実現できるものではありません。大学を取り巻く環境が絶えず激しく変化することも忘れてはなりません。しかし、これからの進むべき道程を明確にし、東北大学の教職員、学生、そして同窓生が相互に切磋琢磨をして一体となってその力を発揮し、更には広く社会の方々と連携して人類社会の様々な課題に挑戦すること、これが東北大学に託された使命なのです。

これからの東北大学が果たすべき使命及び活動を皆さまにご理解いただくとともに、多くの方々と共に挑戦していくことにより、社会から信頼、尊敬、そして愛情を得られる大学として人類社会の発展に貢献して参る所存です。

2007年6月  
東北大学総長 井上明久